

施策体系シート(行政経営Bシート)

作成者	組織	生涯学習課	職	課長	氏名	坂井 芳子
評価者	組織	生涯学習課	職	課長	氏名	坂井 芳子

	施策の目標	成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		評価
					(年度)	(年度)	
施策1	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり	県立生涯学習施設年間利用者数	人	353,000 (H27)	365,222 (H23)	353,708 (H24)	B
施策2	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上	「げんきいっぱいカード」目標達成者数	人	7,500 (H27)	6,836 (H23)	7,344 (H24)	A
施策3	石川の文化や風土を生かした体験学習の推進	「いしかわ子ども自然学校」参加者数	人	5,400 (H27)	4,218 (H23)	4,864 (H24)	A

施策の目標達成に向けて重点的に取り組むべき課題							課題に対する主な取り組み				評価		
施策	課題		成果指標	単位	目標値 (年度)	現状値		事務事業	対象	予算 (千円)	決算 (千円)	事業の有効性	今後の方向性
						(年度)	(年度)						
施策1	課題1	県民大学の充実	石川県民大学校修了者数(累計)	人	15,000 (H27)	13,686 (H23)	14,283 (H24)	1 県民大学校費	県民	37,376	37,336	A	継続
	課題2	図書館マルチ検索・予約システムの運営	県内公共図書館蔵書情報横断検索システム年間アクセス件数	件	242,000 (H27)	171,042 (H23)	162,418 (H24)	2 図書館マルチ検索・予約システム運営費	県民	11,105	11,088	A	継続
施策2	課題1	心の教育の推進	親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」応募数	点	28,000 (H27)	22,471 (H23)	23,774 (H24)	心の教育推進事業費	青少年等	9,124	8,557	A	継続
施策3	課題1	いしかわ子ども自然学校の実施	「いしかわ子ども自然学校」参加者数	人	5,400 (H27)	4,218 (H23)	4,864 (H24)	1 いしかわ子ども自然学校推進事業費	小・中学校生	5,963	5,799	B	継続
	課題2	海洋チャレンジプログラムの実施	参加児童・生徒の満足度	%	100 (H27)	- (H23)	98.3 (H24)	2 海洋体験活動推進事業費	小学校5年生～ 中学校3年生	3,000	2,037	A	拡大

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 県民大学校費	<b>事業開始年度</b>	H2	<b>事業終了予定年度</b>		<b>作 組 織</b>	生涯学習センター	
	<b>根拠法令 ・計画等</b>	石川の教育振興基本計画			<b>成 職・氏名</b>	担当課長 竹林義隆	
					<b>者 電話番号</b>	076 - 223 - 9572 内線721222	

**事業の背景・目的**  
 多様化・高度化する県民の学習要求に応え、本県の豊かな自然と文化の継承発展を図りつつ、社会の変化に対応できる創造的で活力ある県民の育成を図り、生涯にわたる学習の機会を提供する。

- 事業の概要**
- 1 県民大学校・大学院の開設
    - ・大学校教養講座(30単位未満) 入校者 7,279人、修了者 260人
    - ・大学校専門講座(30単位以上) 入校者 599人、修了者 310人
    - 6コース:文化探求、国際理解、スポーツ・生活、産業・情報、能力開発、放送利用
    - ・大学院石川の博士養成講座(30単位) 入校者 87人、修了者 27人
    - 2コース:専修コース(文学・自然・歴史)、講師養成コース
  - 2 県民大学校・大学院修了証書交付式の開催
    - ・H23修了生(大学校 537人、大学院 30人)に修了証書を交付
    - ・記念講演会 参加者 220名
  - 3 講座の開設
    - ・いしかわいきいき講座(8回)、生涯学習ファシリテーター養成講座(7回)、あすなる悠々塾(27回)、能登文化講座など
  - 4 放送利用講座の開設
    - ・テレビ番組「ふれあい空間いしかわ」(27回放送)、「いしかわ大百科」(17回放送)
  - 5 広報等
    - ・ポスター、受講案内等の作成・配布

- これまでの見直し状況**
- ・H11年度 県民大学校大学院「石川の博士」養成講座を開講
  - ・H17年度 県民の生涯学習活動を通して培った成果を発表する機会として「県民企画講座」を実施
  - ・H19年度 「生涯学習コーディネーター養成講座Ⅰ・Ⅱ」を「生涯学習コーディネーター入門講座」、「生涯学習コーディネーター実践講座」に再編
  - ・H20年度 「生涯学習コーディネーター入門講座・実践講座」を「いしかわいきいき講座」、「生涯学習ファシリテーター養成講座」に再編
  - ・H21年度 「生涯学習ファシリテーター養成講座」にスキルアップ講座を設置
  - ・H22年度 「あすなる悠々塾」を開設し、県民が自主企画した講座を実施
  - ・H23年度 事業の見直しにより、「びっくり科学教室」「地域活動指導者専門講座」を廃止  
 県主催の映像関係講座の一部(シネマ・アフタヌーン、子ども映画会)を市町に移管
  - ・H24年度 「あすなる悠々塾in能登」を開設する一方、「はじめてのパソコン教室」を廃止

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり	<b>評価</b>	B			
<b>課題</b>	県民大学校の充実					
	<b>指標</b>	石川県民大学校修了者数(累計)		<b>単位</b>	人	
	<b>目標値</b>	<b>現状値</b>				
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	15,000	11,994	12,558	13,119	13,686	14,283

事業費						
	<b>(単位:千円)</b>	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
<b>事業費</b>	予算	39,655	39,650	38,382	38,092	37,376
	決算	39,655	39,650	38,315	38,090	37,336
<b>一般</b>	予算	39,655	39,650	38,382	38,092	37,376
<b>財源</b>	決算	39,655	39,650	38,315	38,090	37,336
<b>事業費累計</b>		818,275	857,925	896,240	934,330	971,666

評価	
<b>項目</b>	<b>評価</b>
<b>事業の有効性</b> (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A
<b>今後の方向性</b> (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続
<b>左記の評価の理由</b>	
<p>事業の有効性: 県民大学校は、県民の多様な学習ニーズに対応して、県の施設をはじめ、国、市町、民間教育機関等と連携し、平成24年度は1,054(平成23年度1,021、平成22年度944)の多様な講座を開講し、様々な学習機会を県民に提供してきた。また、記念講演を実施することにより、県民が県民大学校をより理解し、生涯学習の場として活用することを促すよい機会となった。</p> <p>今後の方向性: 国際化、価値観の多様化など急速に変化する社会環境のなか、生涯学習社会の実現のため、県民一人ひとりのライフスタイルに応じた学習機会の提供に努めることが重要である。これからの生涯学習社会では、自らの生涯学習の成果や技能を社会に還元し、個人の学習活動と地域社会の生涯学習活動が密接に関連しあう生涯学習社会の実現に向け、県民が講師となって講座を実施できるような学習機会の充実を図る。</p>	

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 図書館マルチ検索・予約システム運営費	事業開始年度: H5	事業終了予定年度:
	根拠法令	石川の教育振興基本計画
	・計画等	

作 組 織	図書館
成 職・氏名	企画協力グループ 司書主任 杉井 亜希子
者 電話番号	076 - 223 - 9581 内線 77247

**事業の背景・目的**  
 インターネット上に所蔵資料を公開し、利用者自らが自宅のパソコンや携帯電話で蔵書検索、貸出予約ができる機能を整備し、広く県民の図書館利用を促進する。県内全域において、より利便なサービスの提供に努める。

また、県立図書館と県内の市町立図書館や大学図書館の蔵書の所蔵情報が同時に検索できる「インターネット横断検索」システムによる、県内図書館所蔵資料のネットワークを整備する。

**事業の概要**

- (1) 図書館業務システムの管理と運用  
 ・貸出・返却、蔵書管理等の図書館電算業務の運用

- (2) 「図書館情報ネットワーク」システムの運用

- (3) 「図書館情報県民開放」システムの運用  
 メール予約・相互貸借利用件数

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24
メール予約	14,689	16,553	17,661	18,377	16,924	17,790
うち相互貸借	8,808	9,276	9,726	9,756	9,171	10,504

- (4) 図書館横断検索システムの運用  
 横断検索システム利用件数

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24
横断検索システム	105,485	119,167	142,093	154,458	171,042	162,418

※H25.2.11～3.3までシステム更新のためシステム停止

- ◆ 石川県立図書館電算化システムの経緯
- |        |                                |
|--------|--------------------------------|
| 平成 9年度 | 県立図書館電算システム導入・運用開始             |
| 10年度   | インターネットによる「ライブラリーネットいしかわ」の運用開始 |
| 11～    | インターネット横断検索システムの運用実験           |
| 14年度   | インターネット横断検索システム本稼働             |
| 18年度   | 県立図書館電算システム更新                  |
| 24年度   | 県立図書館電算システム更新                  |

- ◆ 石川県内公共図書館 電算化の現状(H25.3)
- ・電算システム導入館:42館(県立1、市町立37、大学4)
  - ・横断検索システム参加館:42館(県立1、市町立37、大学4)

**これまでの見直し状況**

- H18年度 業務システムに他システムの機能を一元化
- H23年度 システム機器を再リース
- H24年度 システム更新  
 県内図書館ポータルサイトを開設し、相互貸借に係る事務の効率化を図った

施策・課題の状況						
施策	学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり	評価	B			
課題	図書館マルチ検索・予約システムの運営					
指標	県内公共図書館蔵書情報横断検索システム年間アクセス件数	単位	件			
目標値	現状値					
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	242,000	119,167	142,093	154,458	171,042	162,418

事業費						
(単位:千円)						
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
事業費	予算	24,607	23,022	22,893	21,330	11,105
	決算	24,607	23,022	22,893	21,305	11,088
一般	予算	24,607	23,022	22,893	21,330	11,105
財源	決算	24,607	23,022	22,893	21,305	11,088
事業費累計		704,243	727,265	750,158	771,463	782,551

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	平成24年度に電算システムを更新し、県内図書館の横断検索のさらなるスピード化、メールマガジンや、蔵書検索画面上での表紙画像掲載などにより、県民の利便性を高めた。特に検索では、国立国会図書館や、論文・図書・雑誌などの学術情報を検索できるデータベース・サービス「CiNii」、全国の公共図書館の所蔵状況を検索できる「カーリル」など、他のデータベースを容易に検索できることで、より広範な情報探索が可能になった。相互貸借の利用件数や横断検索システム件数が順調に推移していることから、本システムの運用は、図書館所蔵資料の有効活用に寄与しているものと考えられる。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	横断検索システムの利便性を県民に広報することで、引き続き利用の促進を図る。また、貴重資料のデジタル化を進め、インターネット上で公開することで、多様化、高度化する県民ニーズに応え、あらゆる年代の生涯学習を支援する。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

<b>事務事業名</b> 心の教育推進事業費	<b>事業開始年度</b>	H10	<b>事業終了予定年度</b>	
	<b>根拠法令・計画等</b>	石川の教育振興基本計画		

<b>作</b>	組	織	生涯学習課		
<b>成</b>	<b>職</b>	<b>氏名</b>	課長補佐 笹山 明夫		
<b>者</b>	<b>電話番号</b>	076 - 225 - 1839 内線 5610			

**事業の背景・目的**  
 心豊かでたくましく生きる子どもを育む環境の醸成を図るため、豊かな人間性を培う「心の教育」を県民を挙げての運動となるよう努めてきたが、いじめ・不登校や非行の問題など子どもたちを取り巻く状況は、依然として憂慮すべき状況にあり、「石川の教育振興基本計画」においても、心の教育の充実を施策の方針の一つに位置づけている。  
 そのため、引き続き、学校・家庭・地域が連携した「心の教育」の充実に向けて各種事業を展開し、県民意識の高揚を図る。

**事業の概要**

1 心の教育推進総括事業  
 ・心の教育推進協議会の開催 (10/19 3/25 心の教育推進施策について)  
 会長に教育長、学校・家庭・地域を代表する委員17名で構成  
 ・心の教育推進大会の開催 (11/4 県地場産業振興センター 参加者数 320人)

2 家庭・地域教育力向上推進事業  
 ・親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」の募集 (応募数 23,774点)  
 ・グッドマナーキャンペーンの実施(参加協力者数 89,176人)  
 ・子どもの生活リズム向上推進事業(達成者数 幼児 7,344人 小学生 16,829人)  
 ・ラジオ広報 (24回放送 各方面で活躍する県ゆかりの方へのインタビュー)  
 ・スポーツ選手ふれあい事業(11/5 いしかわ総合スポーツセンター 参加者数 74人)

3 いじめ・不登校対策事業  
 ・フレンドシップ相談員派遣事業(生徒指導・教育相談に関する検討会 23回開催)  
 ・高校生ボランティアリーダー養成事業(合宿参加者20校・38人)

**これまでの見直し状況**  
 H17 「心の教育推進専門委員会」と「いじめ・不登校問題対策専門委員会」を「特別委員会」に一本化。  
 H19 「石川っ子すくすく大作戦心すくすくノート」、「大人と子どものふれあい読書タイム」カード、「いじめ不登校対策チェックシート」をHPに掲載。  
 (学校・家庭・保育園等で自由にダウンロード可。)  
 H21 中高生グッドマナーキャンペーンの声かけ対象を小学生にまで拡大。  
 (グッドマナーキャンペーンに名称変更。)  
 H22 生活リズム向上推進事業の対象を幼児だけでなく児童にまで拡大。  
 (幼児・げんきいっぱいカード 児童・げんきあっぷカード)  
 H23 豊かな心を育む教育推進県民会議を廃止し、新たに心の教育推進協議会を設立。  
 (「石川の教育振興基本計画」における「心の教育」の推進。)  
 H24 各学校でのボランティア活動の更なる活性化を図ることを目的に、これまで実施してきた高校生ボランティア講座を、高校生ボランティアリーダー養成事業に改めた。

施策・課題の状況						
<b>施策</b>	学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上				<b>評価</b>	A
<b>課題</b>	心の教育の推進					
<b>指標</b>	親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」応募数		<b>単位</b>	点		
<b>目標値</b>	現状値					
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	28,000	12,564	15,668	19,631	22,471	23,774
事業費						
(単位:千円)	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
<b>事業費</b>	予算	18,620	15,338	12,035	10,449	9,124
	決算	18,620	15,081	11,966	10,439	8,557
一般	予算	18,620	15,338	12,035	10,449	9,124
	決算	18,620	15,081	11,966	10,439	8,557
<b>財源</b>	決算	18,620	15,081	11,966	10,439	8,557
<b>事業費累計</b>	383,926	399,007	410,973	421,412	429,969	
評価						
<b>項目</b>	<b>評価</b>	<b>左記の評価の理由</b>				
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	A	心の教育推進事業である、「親子の手紙」の応募者数、グッドマナーキャンペーンの参加協力者数、子どもの生活リズム向上推進事業の達成者数が、過去最高を記録するなど、学校・家庭・地域が連携した心の教育への関心の高まりがみられた。				
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)	継続	いじめ・不登校、生活リズムの乱れ等、依然として憂慮すべき状況が子どもたちを取り巻いている。心の教育関連事業への参加者の増加等、県民意識の高揚は見られるが、今後も継続した息の長い取組を進め、より多くの県民がこれらの問題に関心を持ち、社会全体で子どもをはぐくむ環境づくりを推進していきたい。				

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名 いしかわ子ども自然学校推進事業費	事業開始年度	H14	事業終了予定年度		
	根拠法令	石川の教育振興基本計画			
	計画等				

作 組 織	生涯学習課			
成 職・氏名	課長補佐(青少年家庭教育) 清水 茂			
者 電話番号	076 - 225 - 1837 内線 5608			

**事業の背景・目的**

「いしかわ子ども自然学校」を開校し、体験活動期間の長期化も含めたプログラムの多様化を図り、大自然の摂理を体験的に学ぶ中で、自然保護の大切さや思いやりの心を育ませたり、自然の材料を素材として先人の生活の工夫を学ばせるなどの自然体験型環境教育の活動プログラムを実施する。

**事業の概要**

(1) 推進体制の整備

- ・指導者養成事業(指定管理者へ委託)  
子ども自然学校ボランティア養成事業(7講座 124名参加)  
(実施主体: 県立4施設)
- ・学習教材等の整備充実(指定管理者へ委託)  
事前、事後学習及び野外活動に必要な教材備品等の整備

(2) 個人参加型プログラムの提供

① 指定管理者への委託事業

- ・オールシーズンチャレンジ(17プログラム 157名参加)  
1年を通じ、土・日・長期休業期間を利用し、通算10日間程度の活動
- ・サマーチャレンジ(11プログラム 760名参加)  
夏季休業中に1泊2日～3泊4日程度の活動
- ・ファミリーチャレンジ(33プログラム 1,453名参加)  
親子参加型の日帰り・1泊2日の活動

② 市町実施機関主催事業  
サマーチャレンジ、ファミリーチャレンジ(83プログラム 2,494名参加)

(3) 広報・PR活動  
案内パンフレットの作成(小学4～6年生に配付)  
\* 38,000部作成

**これまでの見直し状況**

H14～H18 学校活動型実践推進事業(毎年50校、5ヵ年で全小学校に補助)  
H15～ インタープリターセミナーへの教員派遣(毎年50校)  
H18 学校活動型実践推進事業の検討(H19年度より廃止)  
H19 集団宿泊自然体験活動担当者連絡会議の開催  
H20 指定管理者へ委託  
石川県教育センター研修講座「集団宿泊自然体験活動」を開催  
H24 石川県教育センター研修講座「集団宿泊自然体験活動」を廃止

施策・課題の状況						
施策	石川の文化や風土を生かした体験学習の推進				評価	A
課題	いしかわ子ども自然学校の実施					
指標	「いしかわ子ども自然学校」参加者数			単位	人	
目標値	現状値					
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	5,400	3,296	2,910	3,961	4,218	4,864

事業費						
(単位: 千円)		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
事業費	予算	10,074	9,618	8,047	7,168	5,963
	決算	10,006	9,047	8,046	6,943	5,799
一般	予算	10,074	9,618	8,047	7,168	5,963
財源	決算	10,006	9,047	8,046	6,943	5,799
事業費累計		139,602	148,649	156,695	163,638	169,437

評価		
項目	評価	左記の評価の理由
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)	B	個人参加型プログラムには、実施機関やプログラムの増加により、昨年度より約600人増の、4,864人の参加があった。自然体験活動に対する県民のニーズは依然として高く、特にサマーチャレンジでは定員を大きく上回る応募状況であった。一方で、事業運営に必要なボランティアスタッフの確保が課題となっており、ボランティア講座への参加についても広く働きかけていく必要がある。今後も、子どもたちの豊かな心を育む機会として、自然体験活動の有効性は高く、事業の継続が必要と考える。
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後の取り組みのか)	継続	国の中央教育審議会の答申においても、「体験活動の推進」が掲げられ、さらに「石川の教育振興基本計画」にも「ふるさと自然体験の推進」を謳っている。自然に対する興味関心を高め、集団生活の中で、思いやりや協力する心、責任感などを育む取組は、子どもたちの「生きぬく力」を育む上で大変重要と考え、今後も事業の充実をはかっていきたい。

# 事務事業シート(行政経営Cシート)

事務事業名	海洋体験活動推進事業費	事業開始年度	H24	事業終了予定年度		作 組 織	生涯学習課
		根拠法令 ・計画等	石川の教育振興基本計画			成 職・氏名	課長補佐 清水 茂

<p><b>事業の背景・目的</b> 能登高等学校実習船「おおとり丸」を活用した洋上体験や舢倉島での離島体験を通して、海洋生物調査または動植物観察による環境学習や島の人々との交流による離島生活に関する学習を行う。また、青少年教育施設での集団宿泊活動を行う中で、社会性やたくましさを育むとともに、参加した小中学生相互の交流を図る。</p> <p><b>事業の概要</b> (1)体験内容 ①Aコース(洋上体験+少年自然の家) [1日目]・「おおとり丸」:七尾湾洋上体験活動(海水・生物調査等の環境学習、ロープワークなど) ・鹿島少年自然の家:集団宿泊活動(野外炊飯、キャンプファイヤーなど) [2日目]・鹿島少年自然の家:自然体験活動(イカダ体験、釣り体験など) ・回数:2回(7/26~27、8/2~3) ・参加人数:27人(2回) (定員:15人/回) ・参加費:3,000円</p> <p>②Bコース(少年自然の家+離島体験) [1日目]・能登少年自然の家:集団宿泊活動(野外炊飯、キャンプファイヤーなど) :自然体験活動(大型カヌー体験、磯遊びなど) [2日目]・舢倉島:離島体験活動(島の人々との交流、野鳥・植物観察による環境学習など) ・回数:2回(7/30~31、8/7~8) ・参加人数:92人(2回) (定員:50人/回) ・参加費:小学生:4,500円 中学生:6,500円</p> <p>(2)対象 小学校5年生~中学校3年生</p>	施策・課題の状況						
	施策		石川の文化や風土を生かした体験学習の推進			評価	A
	課題						海洋チャレンジプログラムの実施
	指標		参加児童・生徒の満足度			単位	%
	目標値			現状値			
	平成27年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	100	-	-	-	-	98.3	
	事業費						
	(単位:千円)		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	事業費	予算	-	-	-	-	3,000
決算		-	-	-	-	2,037	
一般財源	予算	-	-	-	-	3,000	
	決算	-	-	-	-	2,037	
事業費累計		2,037	-	-	-	2,037	
評価							
項目		評価				左記の評価の理由	
事業の有効性 (費用対効果の観点も含め、この事業が課題解決に役立ったか)		A				加能丸洋上スクールに代わる新たな事業として試行実施したところ、参加児童・生徒の満足度は、アンケート結果から98.3%と非常に高く、参加児童・生徒にとって、自然体験や新しい仲間との交流を楽しむよい機会となった。また、人との関わりを通し、協力することの大切さなど集団生活の価値について気づきを持たせることができたことから、今後も本事業を継続していくことは、子どもの豊かな心の育成に有効だと考える。	
今後の方向性 (県民ニーズ、緊急性、県関与のあり方等を踏まえ、今後どのように取り組むのか)		拡大				応募者多数で抽選となるほど人気が高く、参加児童・生徒の満足度も非常に高かったことから、平成25年度は定員、回数を増やし、行程も2泊3日に拡充する予定である。また、平成25年度の事業本格実施に伴い、直営から委託に切り替えることとしている。本県が里山里海の利用保全に積極的に取り組んでいることから、次世代を担う子供たちに、こうした体験の機会を提供し続けることは、意義深いと考えている。	